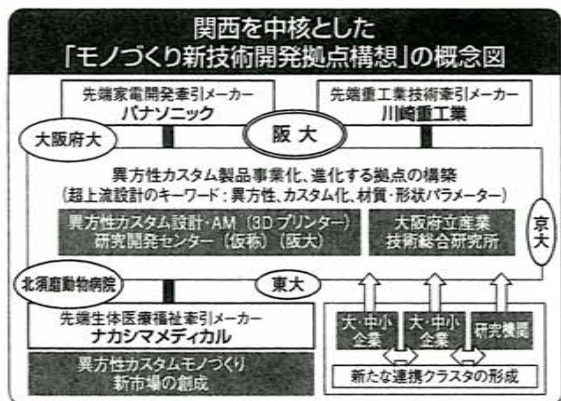




2014年(平成26年)11月7日 金曜日

w6

1



阪大中心に産学連携

大阪大学が中心となり、パンターを活用することを旨とする。ナシマメディカル、京都大学など産学連携で3Dプリンターなどの新しいモノづくり技術の開発に取り組む構想が動きだす。目指すのは「異方性」、「カスタム」をキーワードに、高付加価値化とテラライト(満足度)を与えるための材料組織、材料形状での最適化設計だ。

(1面参照) 木直哉プログラムディレクターによる「革新的設計生産技術」研究開発の一環で実施する。研究開発期間は最長5年間、新エネルギー・産業技術

新ビジネスモデル構築推進

例えはナカシマメディカルは自社のインプラント材料で、人体との親和性(異方性)を高めるため、3Dプリンターを用いた材料設計を推進する。新拠点は内閣府が主導するSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)で、佐々木直哉プログラムディレクターによる「革新的設計生産技術」研究開発の一環で実施する。研究開発期間は最長5年間、新エネルギー・産業技術

動きだす3Dプリンター新拠点

機械・ロボット・航空機

総合開発機構(NEDO)からの委託金は最初の2年間で計6億7000万円。

拠点設立の中心メンバーの一人、阪大の中野貴由教授は「進化するイノベーションス

阪大、モノづくり拠点

金属3Dプリンター開発

大阪大学が中心となり、パナソニック、川崎重工業などが参画して金属3Dプリンター開発など新しいモノづくり開発に取り組み拠点が、2014年度中に設立される見通しになった。関西地区が強みとする金属を中心とした難加工性材料を用いて3D造形を含む製造やアフターサービスに至るまで顧客の立場からの新たなモノづくり体制を構築する。まず、家電、医療素材、航空工

パナソニックなどと

ルギー部材を中心としたカスタム製品で新市場の確立を目指す。(6面に関連記事) 参画するのは研究開発責任者となる阪大大学院工学研究科長の掛下知行教授らの阪大グループと、パナソニック、ナカシマメディカル(岡山市東区)、川崎重工業、大阪府立産業技術総合研究所(大阪府和泉市)、京都大学、大阪府立大学、東京大学、北須磨動物病院(神戸市須磨区)など。

中核を担う阪大は「異方性カスタム設計・AM(3Dプリンター)研究開発センター」(仮称、センター長 田中敏宏 大阪大学教授)を14年度中に大阪府吹田市に設立。金属積層造形(アディティブ・マニュファクチャリング)の装置や加工装置、評価装置などを備え、新たなモノづくり企業への技術やサービスを供給する。